

現場
代理人
レポート

令和3年度 和歌山平野農地防災事業 千旦放水路(その2)工事

本地区は、和歌山市東部に位置し、長期に渡って、水田を主体として栄えた豊かな農業地帯です。広大な田畑の周囲には、無数の用水路、排水路が設置されていますが、近年の気象変状に伴うゲリラ豪雨の影響により、抜本的な水路再開発が計画されてきました。

本工事は、千旦住宅地区内に推進管路を埋設するための到達立坑を築造する工事です。立坑は、内径φ7.0m、壁高H=19.0mのオープン圧入ケーソン工法を選定しており、近接する家屋を考慮した影響遮断壁がL=10.0mの鋼矢板にて計画されています。

工事は、同時発注されている水路工事や樋門工事等の別工事との関連調整を実施しながらの工程管理となっており、また、周辺家屋との離隔、幅員が狭いものの、比較的交通量の多い搬入動線からの機材搬入等の作業環境による課題が山積みとなっていますが、近隣住民の方に御理解を得ながら工事を進めていくことが重要となっています。工事は、現在、影響遮断壁の鋼矢板打設を完了し、9月から本格的にケーソン工事に着手していくこととなり、大型機械による作業が主体となりますが、作業所全体が一丸となり、工期内、無事故・無災害に努めてまいります。



監督職員からのエール

千旦放水路は、紀の川左岸地域の湛水被害を軽減するための重要な水路で、本工事は推進区間の到達立坑を施工する工事です。本工事の下流側では、樋門工事(国土交通省支出委任)や水路工事(ボックスカルバート等)を施工中で、これらの工事と現場が錯綜すること及び工事現場周辺には住宅やマンションが建ち並び、騒音や振動には特に注意が必要な現場となっています。

現場代理人の鶴岡所長は、制約条件の多い現場内で施工するため、他工事との綿密な調整や工事への関心が高い周辺住民の方々に対し、丁寧な説明により適切に対応していただいているところです。

千旦放水路が完成することで周辺地域の湛水被害を軽減する効果は大きく、地元からも大きな期待が寄せられています。今後も、周辺住民の方々とのコミュニケーションを図りながら、事故がないよう安全第一で工事を進めていきたいと思います。

監督職員

(写真右) 近畿農政局和歌山平野農地防災事業所
工事第一課長 松下 敏彦

現場代理人

(写真左) 株式会社竹中土木
千旦放水路(その2)工事作業所 鶴岡 逸郎

